

第1回 学校運営協議会 議事録

校名	府立 岬高等 学校
校長名	中村 公一

開催日時	令和5年5月26日(金)
開催場所	大阪府立岬高等学校 会議室
出席者(委員)	保井太郎 会長 、 島崎英夫 副会長 、 尾保手崇 委員 、 齋藤緑 委員
出席者(学校)	中村公一 校長、小幡和子 事務長、中原浩育 教頭、槿原秀一 教頭 首席2名、教務主任、進路指導主事、生徒指導主事、保健主事 教育相談委員長、パスファインダー、学年主任3名、初任者2名
傍聴者	なし
協議資料	令和5年度学校経営計画、スクール・ポリシー
備考	

議題等(次第順)

1. 【はじめに】
 - ① 学校長挨拶
 - ② 学校運営協議会実施要項について
 - ③ 学校運営協議会委員の紹介
学校運営協議会 会長・会長代理の選出
2. 【連絡及び報告】
 - ① 学校長より報告
令和4年度学校経営計画及び評価について
令和5年度学校経営計画について
 - ② 各部事業報告
3. 【協議事項】
 - ① 令和5年度学校経営計画について
 - ② スクール・ポリシーについて

協議内容・承認事項等(意見の概要)

- ① 学校長挨拶
 - ② 学校運営協議会実施要項について
 - ③ 学校運営協議会委員の紹介
2. 【連絡及び報告】
- ① 学校長より報告
令和4年度学校経営計画及び評価について
- 2(2): 特別活動の充実
事後アンケートの肯定的意見70%以上という目標は達成したが、新型コロナウイルス感染症の感染予防の制限のためやりきれなかった部分があった。今年度は5類引き下げのため以前のかたちで取り組める。コロナ禍で得た良い部分も取り入れながらブラッシュアップしていきたい。
- 2(3)ア: キャリア教育の充実
目標とする値には達しなかったが、令和3年度よりかは回復した。本校では生徒の個性に応じて生徒指導と教育相談がチームとなり粘り強い指導を実践している。
- ② 各部事業報告
【教務部】
追認指導などの成績不審者へのフォローを充実させ欠点者の減少をめざす。
- 令和5年度入学者選抜について
特別入学者選抜は学力検査点数が一定以上の者の中から自己申告書・調査書所見・面接により定員の50%までを合格とする。残りの定員までを学力検査、面接、調査書により合格とした。定員210名のところ合格者数は126名で志願者倍率は0.6倍であった。2次選抜は定員84名のところ1名合格であった。

【進路指導部】

進路状況について

42期の進路は就職が約60%、進学が約35%であった。

進学について

合格後のお金のトラブルで入学を断念するケースが起こっている。本人保護者に奨学金について丁寧な説明をする必要がある。

就職について

生徒は地元で就職したいという傾向があるので、全教員で約200件の企業へ訪問し、泉州・関空の求人を開拓していく。就職試験を乗り切るために早期の面接指導や履歴書指導を行う。

【生徒指導部】

立ち番指導について

2人担任制となったが工夫して継続して行っている。

講演について

コロナが落ち着いてきたので、警察や専門家を招いて交通マナーやSNSや薬物濫用について実施していこうと計画している。

進捗状況

教員の気づきにくい場所もあるが柔軟に対応することで立ち番によって問題行動が未然防止されている。また、立ち番によって校内に教員が立っていることで生徒と教員のコミュニケーションの場となり、教員が小さな生徒の変化を見逃さない安心できる環境づくりにも一役買っている。

今年からスクールカウンセラーが常駐しているので生徒指導と教育相談が連携しカウンセリングによって生徒の不安を取り除き総合的な支援をしていく。

【その他(権原教頭より)】

ステップスクールについて

来年度の本格実施に向けて今年度は先行実施できるところはしてゆく。ステップスクールの柱の一つである地域連携について、各種団体、企業と包括連携協定を締結する予定である。岬町とは先日行った。現在、約20の企業団体にアプローチし、14の団体から前向きな回答いただいている。体験型授業の実施についてはまだ課題はたくさんある。今年からスクールカウンセラー常駐している。きめ細かな生徒支援を進められるようにする。

○質疑応答

Q:エンパワメントスクールは終わりですか？

A:ステップスクールになるにあたってエンパワメントスクールからは外れます。

Q:体験型学習具体的に内容を聞きたい。

A:ブルーベリーファーム岬でのブルーベリーのお世話体験や収穫後に余った実を収穫させてもらい、何かに利用できないか。

関西空港の消防活動・警備清掃の体験をする。

外国人労働者の支援の企業へ行って外国人の方と一緒に実習を行う。

モノポリー協会からモノポリーの日本チャンピオンに来てもらい講演をしていただく。

といったものについて現在話をすすめている。

Q:ステップスクールのカリキュラムについて総合的な探求の時間は行うのか？

A:地域連携と名前を変えて行う予定。→ただの名称変更で終わらないでほしい

3.【協議事項】

①令和5年度学校経営計画について

校長より説明

中期的目標

【エンパワメントスクールの教育内容の充実】

来年度よりステップスクールとなり、エンパワメントスクールの縛りがなくなるが、モジュールは学びなおしに一定の効果があるので残したい。エンパワメントタイムについて単位数は絞っていく必要がある。しかし、考える力は社会に出るために必要な力なので残しつつ体験的な授業に変えてゆきたい。

【学習活動の充実】

学校での授業をわかりやすく面白くすることで学校に興味を持たせ中退率を下げたい。

指標として授業アンケートで生徒の肯定的な意見を増やしたい。

体験的な活動をどう授業に落とし込むかを考えてゆく必要がある。

ネックになるのが移動の手段でスクールバスを活用できないか要求をしているが実現が厳しい。

【キャリア教育の充実】

年度末での転退学を減らすために成績を挽回できる方法がないかを模索している。しかし、ハードル下げること転退学率が下がるとは思えない。どうすれば学校に興味に向くかアドバイスが欲しい。

【人権教育の推進】

今の時代、それぞれの個性や特性について指導を変える必要がある。しかし、その指導を見た他の生徒からの不平が出ないように慎重に行っていかなければならない。

【働き方改革】

大阪府より10項目の取り組みを提示されている。そのひとつとして、定時一斉退庁日の設定があり、4月より実施している。まだ始まって2か月なので効果を検証していく必要がある。

また、時間外の電話対応について8時30分から17時00分以外は時間外として音声案内となる予定である。本校はまだ電話の工事の段取り中である。時間外の連絡についてはGoogleフォームを用いての連絡で対応する。ペーパーレス化については本校では教員の1人1台端末の運用はできていないため進んでいない。予算の面から先延ばしの状況である。

【地域連携】

本年度からはコロナによる制約がなくなりそうなので、コロナ前の数値を達成していきたい。

○提言

働き方改革よりも教員の数を増やしてもらうのが先ではないか。

めざすべき方向が生徒に伝わることで生徒は面白いと感じる。それがなくなるときちんとした指導はできないのではないか。ぜひとも授業・生徒指導・進路指導が一体となって生徒にとって面白いものとなるようにしてほしい。

体験学習であれば、社会に参加する(周囲から感謝される)ことで自分自身も成長できる仕事があるというところまで分かってもらえるように持っていければ素晴らしい。

PDCAサイクルのAの部分について失敗を恐れることなくいろいろやってみることが生徒指導面・働き方面に重要ではないか。

岬高校が閉校になるのかとよく聞かれる。新しい学校となるのであれば、しっかりと告知していくのが大事なのではないのか。→まだ府から情報公開について許可が下りていない部分がある。解禁されたらしっかりと告知していきたい。

岬町はお年寄り(インターネット使わない世代)が多いので広報として回覧板の利用はできないのか。→今年度はコロナの制限もなくなるので、地域のイベントに生徒をどんどん参加させてアピールしていく。

生徒だけでなく先生方が面白いと思うことをしてあげてほしい。

スクール・ポリシーについて

校長より説明

昨年度スクール・ミッションを策定した。つづいてスクール・ポリシーの策定しなければならない。

ご意見

地域連携しつつ「ともに学び、ともに育つ」とおもしろい。

地域連携しながら経営計画の3つの力を盛り込めないか。

次回の会議日程

日時	令和5年10月4日
会場	大阪府立岬高等学校